



自衛隊適齢者
名簿提出問題

「性自認」は基本的人権! 「個人情報保護法」違反! 《かすみがうら平和の会》

「紙での情報提供は止める」と市が回答!

かすみがうら平和の会は、今年6月、「かすみがうら市の平和行政に関する要望書」に基づく懇談を行い、一定の成果を得たことについては、既にかわら版にも取り上げていただいたところですが、その後、再要望書と質問書をそれぞれ6月、7月に提出し、市長同席のもとでの再懇談を求めました。その結果、9月になって、当面の最重要課題であった「自衛隊適齢者情報の提供問題」について、良い回答が得られましたので、お知らせします。

■「個人情報保護法」違反! 「性自認」は基本的人権!

これまで6年間、市は、「個人情報の保護に関する法律で、法に定めがある場合は、本人の同意がなくても第三者に個人情報を提供できる」ので、「市が自衛隊に、採用年齢に相当する市民の4情報(氏名・住所・生年月日・性別)を提供することは何ら問題がない」との一点張りで、自らの



紙による情報提供を正当化してきました。これに対し、当会は、自衛隊法やその施行令は個人情

報保護法が言うところの「法の定め」には該当しないこと、また、「性自認」の問題は、世界的にもデリケートな問題で、基本的人権でもあり、行政といえども、本人の承諾なしに第三者に情報を提供することは、人権侵害とも言える行為だ、と追及し、提供をやめるか、該当者全員に4項目毎に承諾を得て、承諾の得られた人の得られた項目のみを提供する方法に改めるべきだと主張してきました。

■紙での情報提供は止め、住民基本台帳の閲覧申請で

その結果、「これまでの紙での情報提供はやめ、住民基本台帳の閲覧申請を受ける対応としたい。この回答をもって、今回の要望・質問への対応とさせていただきます」と、やんわりと市長同席での懇談を断りつつ、回答は、一歩前進した内容となりました。

この回答に大きく貢献したのが、県平和委員会が事務局長名で県内全市町村にお願いしたアンケートです。全ての自治体から回答があり、その結果をまた全市町村にフィードバックしたことで、それぞれの自治体の位置が客観的に把握され、「住民基本台帳の閲覧」で済ませているところが複数あったことが、かすみがうら市の対応変更への勇気につながったのです。

《石井明・かすみがうら平和の会》

新聞意見広告の賛同を、もっともっと広げよう!

このままでは **大ピンチ!!**

9月30日の第1回理事会からスタートした2023新聞平和広告(意見広告)の取り組みに赤信号が点灯しています。賛同呼びかけを始めて40日が経過しましたが、集約状況を見ると、11月10日時点の比較で、昨年の実績(個人70人・109口、16団体・16口)に比べ、今年は個人39人・53口、7団体・7口と半分以下の集約状況です。

諸物価の異常な高騰と賃金・年金の実質低下のダブルパンチが大きく影響しているものと思われます。このままでは賛同金総額は百万円を切り、新聞掲載料と必要経費がやっと賄える程度しか集約できないことにもなりかねません。

県平和委員会の財政は、この事業収益(賛同金総額から経費を除いた金額=今年は110万円)を想定して予算化し活動しており、このままでは大幅な赤字財政になってし

まいます。

今年は賛同者名を掲載する別刷り完成を早めるため、賛同金募集の最終締め切りを12月10日(昨年までは年末)

に設定しており、このニュースが発行されるときには、残期間が1か月を切っています。

困難な生活環境の中ではありますが、みなさまのさらなるご協力をお願いします。

《茨城県平和委員会事務局》

▼今年の意見広告案



「平和大会 in 鹿児島」に参加して

《日本平和大会報告》

日本平和大会が、11月11日、12日の2日間、4年ぶりに、鹿児島市内にある宝山ホールで開催されました。韓国・釜山「平和と統一を開く人々」の事務局長が「釜山を比較平和の都市にする活動」を報告するなど民間の交流の大切さを実感しました。

上野郁子沖縄県平和委員会事務局長は、「米軍基地建設反対の長い闘いをしてきた。すでに四半世紀を過ぎた。マスコミはほとんど報道しないが、全国から多くの励まし



▲日本平和大会の動画より

がある。国は、言うことを聞かなければ、代執行する。そして、担当の県職員に、基地建設が遅れた損害を賠償させると脅

している。玉城デニー県知事は職員も県民も裏切らないと頑張っている。日本の国の政治は、いまや墮落ではなく、崩落している。地方の政治から変えなければならない。変える力を作り出しましょう!とあいさつしました。



九州、沖縄の参加者からの最後の訴えは「馬毛島への米軍施設に反対する市民・団体連絡会会長」の山内光典さんがおこないました。米軍の戦闘機訓練のために基地建設を強行する岸田政権の追従ぶりを告発しました。茨城県平和委員会は、みなさんから寄せられた日本平和大会ツアーカンパの中から1万円を支援しました。

《篠原陸 県平和委員会事務局長》

鹿行平和委員会（鹿嶋班）のとりくみ

「戦争は絶対にだめ」の声!

てーら祭（鹿嶋市の文化祭）で「高校生の原爆の絵」パネル展示

「てーら祭」とは鹿嶋市が主催し市民が運営する市の文化祭です。鹿嶋市に住んでいる「人たちはてーら」のお祭りです。街づくりセンターを主な舞台に活動している、多くの文化団体等の発表の場です。

鹿行平和委員会（鹿嶋班?）は、この「てーら祭」で毎年「戦争と平和」のパネル展に取り組んでいます。昨年に引き続き、「高校生の描いた原爆の絵」を展示しました。この原爆の絵がどのような経緯（いきさつ）で描かれたのかを、



簡単に説明したボードを事前に作製し、一緒に展示しました。参加者の理解を深めるのにとっても役立ち

ました。参加者には親子連れも多く、親も子どもたちも絵を見て説明文をよく読んでいました。

鹿嶋市長、教育長、議会議長が、担当者とともに個別に来訪し、熱心に見入り、「戦争は絶対にやってはいけない」などと、話してくれました。

年配の女性は、説明の合い間に、家族が徴兵され戦死したことなど、思い出を話してくれました。つらい経験だったことを強く感じました。別の女性は、ウクライナや中東ガザの戦闘の現状などにも触れながら、「戦争はやっぱりだめ」「戦争のことを忘れてはだめだ」「こういう展示が大切。ごころうさま」との声も聞きました。平和委員会の作成した秋のチラシ100枚がすぐになくなりました。



県民投票カフェを開催!

常陸太田平和の会など10名が!

「話そう、選ぼう、いばらきの未来を語る県民投票カフェ」が11月8日（水）、常陸太田生涯学習センターで開かれました。

常陸太田平和の会と第二原発を考える会などの会員約10名が参加。東海第二原発の再稼働問題を、県民や市民が意志表示する県民投票を実現するための討議を行いました。受任者、協力者を増やすための方策を話し合いました。

その後、JR常陸太田駅前、帰宅する市内高校生などにチラシの手渡しとシール投票を行いました。シール投票は「県民投票で意志表示する」コーナーに23枚、「知事や議会に任せる」に4枚が貼られました。シールボード、ノボリ、チラシを用意し、県民、市民に宣伝しました。平和委員会の作成した秋のチラシも配布しました。《常陸太田平和の会 白田義昭》



▼シール投票の様子

(編集部) 100字以内でお待ちします! (編集部) 100字以内でお待ちします! (編集部) 100字以内でお待ちします!